

T4

かがわ型アスパラガス栽培システムにおける

スピードスプレーヤを用いたネギアザミウマ防除方法の検討

○中西 充、渡邊丈夫、池内隆夫（香川県農業試験場）

[背景]香川県内では、省力的な栽培方法として、間口 5.5m のハウスに 2 畝配置し、枠板を用いて高畝にした「かがわ型アスパラガス栽培システム」が普及しつつある。本栽培システムは作業通路が広いため、管理や収穫作業が容易となり、軽労化が期待されている。

そこで、防除作業の省力化を行うため、作業通路からの散布で通路反対側のアスパラガス擬葉に対する効果も期待できるスピードスプレーヤによる防除方法を検証した。

[材料と方法]

(1) スピードスプレーヤ：SSW-400CM-3（自走式/歩行タイプ, 丸山製作所製）

(2) 対象農薬：アドマイヤー顆粒水和剤（イミダクロプリド 50%）

(3) 評価方法：アスパラガス擬葉を 3 株から各 4 カ所、合計 12 カ所からサンプリングを行い、食餌浸漬法によるネギアザミウマに対する効果確認と残留農薬分析によるイミダクロプリド付着量を調査した。また、一部、ハウス内の防除効果を払落しにより確認した。

[結果および考察]

スピードスプレーヤ（自走式/歩行タイプ）による防除は、通常の手散布より、散布時間が短く、散布むらも小さい傾向があった。特にオペレーターによる個人間差が小さかった。しかし、直接噴霧した擬葉で、イミダクロプリド付着量は最大で、ネギアザミウマに対する効果も高かった。一方、直接噴霧していない擬葉では、付着量が小さく、効果も低かった。特に、植物体上方で、その傾向が強かった。なお、払落しによるネギアザミウマ生存数調査では、手散布と同等の効果があった。

Investigation of Control Method for Onion thrips using Speed Sprayer in the Kagawa Asparagus Cultivation System.

○Mitsuru Nakanishi, Takeo Watanabe, and Takao Ikeuchi

(The Kagawa Prefecture Agricultural Experiment Station)

The Speed Sprayer enables us to have a good uniformity in the direct spray spot, and to spray in a short time. And the individual difference of each operator is small. However, the direct spray spot showed maximum deposit of Imidacloprid on the leaf, and the high biological effect on Onion thrips, while in other spots, the deposit was small, and the effect was low.